

実践の往還を考えるⅡ

— 「わたし」につながる人生・教育・コミュニティでの実践 —

セミナーのテーマは昨年に続き「実践の往還を考える」です。テーマは同じですが、今回とりあげる実践は、複言語・複文化で生きる個人の人生実践、教室における教師の教育実践、コミュニティの活動実践、この三つの異なるフィールドの「場」の実践を取り上げます。多様な「場」の実践を往還させ、参加者それぞれの「わたし」の実践と往還させることを目指します。

2025年 3月16日 

10:30~16:30 (タイ時間 GMT+7)

コメンテーター：池上摩希子氏 (早稲田大学)
館岡洋子氏 (早稲田大学)

会場：Srinakharinwirot University (シーナカリンウィロート大学)
対面とオンライン(Zoom)のハイブリッド開催

参加費：200バーツ (タイ国内の学生のみ50バーツ)

定員：対面参加50名、オンライン参加80名

主催：タイにおける母語・継承語としての日本語教育研究会 (JMHERAT)

■お申し込み・詳細：<https://jmherat2006.wixsite.com/jmherat/post/21th-seminar-announcement>

■問い合わせ先：JMHERAT@gmail.com

■研究会Webページ：<https://jmherat2006.wixsite.com/jmherat>

JMHERAT 

申込期間：2月1日(土)~3月9日(日)

〈当日の予定〉

▶ 第1部 複言語・複文化ワークショップをめぐる実践と学び(発表者/実践の場・地域)

- 「学びの二重の環—コミュニティの学びはどう起こるのか」(館岡洋子/早稲田大学)
- 「日本の公立高校での複言語・複文化活動を取り入れた授業実践」(田川ひかり/大阪府立わかば高等学校)
- 「「実践共有会」というコミュニティから得られる学び—「二重の環」による協働省察の場づくりへの挑戦—」(三輪聖/テュービンゲン大学 橋本洋二/豪州繫生語研究会、JMHERAT日本部会)

▶ 第2部 言語活動の実践報告(発表者/実践の場・地域)

- 「複数の異なる言語文化背景を持つ私と娘のライフストーリー」(中村寿美/保護者)
- 「トランスランゲージングを取り入れたことで学習者はいかに変容したか—タイのインター校IBクラスの文学授業実践から—」(山田浩美/NIST International School)

▶ 第3部 「往還」をめぐる コメンテーターより



JMHERAT

JAPANESE MOTHER
TONGUE AND
HERITAGE
LANGUAGE
EDUCATION AND
RESEARCH
ASSOCIATION OF
THAILAND

協賛：トレイルインターナショナルスクール
後援：国際交流基金バンコク
日本文化センター
後援：タイ国日本人会
広報協力：タイ国日本語教育
研究会

